

全国知事会 第40回 新型コロナウイルス緊急対策本部会議
蒲島熊本県知事コメント

まず本県の感染状況についてです。

10月中旬頃から、新規感染者数が増加する状況が続いており、一昨日には約50日ぶりに、一日の新規感染者数が千人を超えました。

病床使用率も、先週9日に20%を超え、昨日時点では26%となっています。

そのため、11日には熊本県リスクレベルを「レベル2」に引き上げ、県民へ基本的な感染防止対策の徹底や、早めのワクチン接種を呼び掛けています。

本日は2点申し上げます。

1点目は、「出口戦略と、そのロードマップ」についてです。

第7波以降、全数届出の見直しや、待機期間の短縮、また、先週国の専門家が示した新たなレベル分類の考え方など、新型コロナへの対応が少しずつ見直されています。

ウイルスの特性や、治療薬の確保状況等に応じて適宜対応を見直すことは必要です。

しかし、感染症法上の取扱いの見直しを含めた最終的なゴールが示されず、今がどの過程にあるのかが分からないままでは、国民の協力は得られないと考えます。

オミクロン株対応ワクチンの接種をとっても、あらゆる媒体を通じて正しい知識を啓発し、早めの接種を呼び掛けていますが、初回接種のように進んでいません。

これは、コロナ禍が長期化し、たびたび対応が見直される中で、国民の理解や納得を十分に得られていないことが一因だと考えます。

理解や納得を得るためには、現在、段階的に移行を進めているウィズコロナの、今後の見通しを示すことが重要です。

例えば、オミクロン株対応ワクチンの接種にインセンティブを持たせるなど、経済と連動した対策も考えられます。

どの段階になれば、どの見直しを行うというウィズコロナに向けた今後の見通しや、それと連動した対策が示されてこそ、今必要な対応を正しく理解し、納得の上で行動していただけるのではないのでしょうか。

「出口戦略と、そのロードマップ」の提示を、国に強く訴えていただきたいと思います。

2点目は、「全国旅行支援」についてです。

おかげ様で、全国から多くの旅行者に来ていただき、一部の宿泊事業者と旅行事業者では、配分した助成額の上限に達し、追加配分で対応しています。

一方で、令和2年7月豪雨の被災市町村は、いまだ復興の途上にあり、全国旅行支援の恩恵を受けられない旅館もあります。

そのため、様々な事情を抱えている地域に配慮の上、引き続き、全国旅行支援の延長など、息の長い支援をお願いしたいと思います。

以上